

# ワーク＆ライフ・インターん体験学生報告

2017年度から共働き家庭で子育てと働く親の生活を知るインターン、「ワーク＆ライフ・インターン」が行われています。2018年度に参加した3名の報告を紹介します。

(人間科学部 人間科学科 教授 荻野佳代子)

## 【目的】

私がこのインターンシップに参加したのは、まず、家庭と仕事の両立を自分がするかもしれない未来が全く想像できなかつたからです。両親も共働きではなかつたため自分にとつて身近に感じられていました。そのため、このワーク＆ライフ・インターナンを通して自分の身をもつて学んでみたいと思いました。また、大学1年生の、まだ比較的時間に余裕のある時期から色々なことに挑戦してみたいたと思つたからです。自分の学部・コースは2年生になると忙しくなると先輩から聞いていたので、今やりたいと思つたことには積極的に取り組もう！という考え方で臨みました。

## 【課題】

このインターンに取り組むにあたつての自分の

課題は、実習先のお子さんと積極的に関わること、共働きをしているご夫婦に結婚する以前のビジョンと現在について聴きたいことをヒアリングすることでした。学び取りたかったのは、学生時代の過ごし方や就職活動の経験談、現在共働きをする中でお互いに心がけていることです。中でも重き

を置いていたのはヒアリングで、このような機会は滅多に訪れないでの貴重な時間を無駄にしないよう、ヒアリングのその内容を充実させることも課題の一つでした。

## 【実習内容】

実習に入る前に2回ほど座学での研修がありま

した。インターン生3人で共働きのご家庭にお邪魔して、まずはお子さんと遊んだりあやしたりして、親の疑似体験のようなことをさせてもらいました。

## 【今後の課題】

自分に足りないと気付いたことは、思い切りです。これは、ヒアリングを通して気づいたことです。旦那さんが、「学生時代にやりたいことをやっておいたから、今は休日に家庭に入れる」と仰っていました。その後皆で夕食を取り、1日目はお母さんに2日目はお父さんにヒアリングさせて頂きました。その内容としては、お二人の大学生時代のころのバイト経験やサークル活動、就職活動、就職してからのこと、そして結婚して子どもが生まれてからのお話を伺いました。

(人間科学部 人間科学科1年 保科歩美)

人間科学部	人間科学科	保科 歩美
外国语学部	スペイン語学科	高橋 あい
人間科学部	人間科学科	矢澤 みなみ

## 【実習成果】

課題の達成状況として、まずお子さんと積極的に関わることは意識的に取り組めて楽しみながら達成できました。また、ヒアリングについても自分があらかじめ聴きたいと考えていたことは聴くことができました。尚且つ、他のインターン生がする質問が自分の価値観や視点と異なつていたことがとても興味深かったです、それに対する相手方の返答からも得るものが多くなったように思います。想像していた以上に濃い体験をすることができました。

#### ● ワーク＆ライフ・インターンに参加して

【目的】

インターーンシップに参加した目的は、「自分の将来に対して仕事と子育ての両立をしながら生きていく」というイメージを膨らませたいと思つたからです。今回のワーカライフインターーンは、実際に共働きを経験しているご家庭に訪問して子どものお世話を体験したり、お父さんお母さんへのヒアリングをしたりと、大学生のうちに貴重な体験ができると思い参加を決めました。

課題

インターインシップに参加する前に設定した課題は二つあります。一つ目は、子育てをする上での知識を学ぶことです。これは、子どもの発達過程における知識を得ることに加え、子育てに関する社会制度について学ぶことも含まれています。二つ目は、将来に対応する不安の解消です。本当に仕事と子育ての両立はできるのか。子どものためにも仕事を続けることはデメリットになるのではないか。このような漠然とした疑問を自分なりに解決したいと考えました。

## 【実習内容】

ワーククライフィンターンの大きな特徴は共働きのご家庭を訪問する体験実習ですが、お邪魔する前に事前研修として様々な知識を得てから出発しました。将来の夢を描くところから始まるこのインターンでは、様々な視点から「自分の可能性に

## 【実習成果】

今回のインターンでは、私の思っていたものよりも多くの知識を得て、体験できたりと確信しています。インターンを始める前の課題を解決できたのはもちろんのこと、すばらしい仲間、すばらしい人生の先輩たちと出会えたということが、このインターンの価値になつたと思います。

ふたをしない」ための生き方について勉強します。

子どもへの接し方、注意しなければいけない点を学ぶのはもちろんのこと、企業の子育ての制度、また、自身がセクシュアルマイノリティである講師の方をお呼びして人生の多様性について学ぶなど、幅広い知識を得ることができます。体験実習は、夕方、授業を終えその足で保育園のお迎えに行くところから始まります。一緒にご飯を食べた後、遊んだり、寝かしつけたり、毎日のルーティンを体験することができます。ヒアリングの時間

多くの可能性があると知れたからこそ、これらの人生を前のめりに挑戦したいと思えました。子育てに対する不安、仕事に対する不安、私なりに少しずつ解消しながら一步一步進んでいく勇気をたくさんいただきました。「自分の可能性にふたをしない」、そんな生き方がこれからできるんだ！というわくわくでいっぱいです。インターナンを通して出会えた方々へ、ありがとうございます。

(外国語学部)スペイン語学科3年 高橋あい)

### 【目的】

スリール株式会社のワーク＆ライフ・インターングプログラムを初めて知ったのは、私が大学2年生の時に受講した「ジェンダー心理学」の講義でした。その時、このインターングの内容に興味を持ち参加の応募をしましたが、家庭の事情により参加することができなくなってしまいました。それから2年後、他の講義で改めてこのインターングについて知る機会がありました。既に就職活動を終えていましたが、「大学生の間でしか経験できないことである」と感じたため、参加させていただきました。

### 【課題】

夫婦共働きで子育てをしているご家庭にお邪魔し、仕事や子育てについてヒアリングを行い、自分のキャリアの参考にしたいと思いました。

### 【実習内容】

ご家庭に訪問する前に、まず子どもの成長過程や安全確保について座学を行いました。大人が普段何気なく生活する中でも、子どもにとつては危険な環境であることがあると学び、大人は子どもの行動に配慮する必要があると感じました。そして、二度のご家庭訪問がありました。1回目

は、まず保育園へお子さんをお迎えに行きましたが、その日はお子さんの体調が優れなかつたため、お母さんへのヒアリングを行いました。ヒアリングでは夫婦共働きで子育てをすることのやりがいや大変なことをお聞きしました。2回目は、保育園のお迎えの後、お母さんとお子さんと一緒に

ン生2名で、夕食のカレーを駆走になりました。

その後、お子さんが好きな海の生き物の特集番組を観たり、積み木で遊んだりしました。

### 【実習成果】

ご家庭訪問でお母さんにヒアリングをする以前は、「夫婦共働きで子育てをするのは、大変なことしかない」と思い込んでいました。しかし、お母さんは「会社」と「家庭」の2つの環境があることで、生活にメリハリがつくと仰っていました。ヒアリングを通じて、仕事と子育てのどちらも行うことのメリットがあることを学び、課題を達成することができたと感じます。

### 【今後の課題】

インターングに参加する以前は、子育てに対して消極的な印象を抱いていました。しかし、お母さんへのヒアリングを通じて、仕事と子育てを両立することの、やりがいやメリットがあることを知りました。ヒアリングをしたことでの将来の選択肢が広がつたと感じ、今後自分のキャリアの参考にしたいと思いました。

(人間科学部 人間科学科4年 矢澤みなみ)

※学年は2018年時点

なお、2019年度は文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」に採択され、2020年度は共通教養科目「キャリアデザイン」ワーク＆ライフデザイン教育プログラム」のなかで実施する予定です。



説明会



最終プレゼンテーション